

令和5年度 看護管理者活動推進委員会 活動報告

■委員名	<p>委員長：矢野尾ひとみ 副委員長：井下訓見 委員：武田志乃・永良直子・板東由美・荒尾和美・箕浦洋子・堀口美由紀・北野貞</p>
■開催回数	8回
■活動目標	<p>1. 看護管理者の組織的課題解決に向けて支援する。 2. 看護管理実践能力向上のための活動を支援する。</p>
■活動内容	<p>1. 看護管理者の組織的課題解決に向けて支援する。</p> <p>2. 看護管理実践能力向上のための活動を支援する。 1) 看護管理者が抱える組織的課題の抽出と分析を行い、支援策の検討を行った。 看護管理者交流会の実施 令和5年9月～令和6年6月 オンライン17:00～18:00 9月、10月、11月、12月、令和6年1月、2月 6回開催 対象者：看護管理者・看護師長とする。</p> <p>2) 看護管理者実践能力向上のための研修の実施 「看護管理者研修 看護管理者が自分を大事にするってどういうこと？ ーセルフコンパッションを持ち、自分をいたわろうー（オンライン配信研修）」 講師：神戸市看護大学 教授 船越明子 氏 開催日：令和6年3月16日 13:30～15:30 参加者：48名</p> <p>3. 認定看護管理者フォローアップ 令和6年2月24日 看護管理実践発表会への支援として出席（座長）</p>
■活動の評価	<p>1. 課題の抽出と分析 1) 交流会を通し看護管理者が抱える問題の中でも人の問題は大きな課題となっている。人の問題（看護師の権利意識・逆パワハラ・看護師の精神的問題）は、離職につながり、これらの問題に直面する看護師長の負担は大きくストレスを抱えている現状を知る。 2) ポストコロナで看護を振り返ると質の低下、看護の本質が見えない現状が現場にはある。（看護記録の内容など）</p> <p>2. 看護管理者交流会の運営 参加人数：毎回委員会のメンバー含め15名前後の管理者が参加している。訪問看護ステーションから参加もあるなど新規の参加者も増えている。1名の方はこの会でのやり取りを役立てたいと継続参加している。 参加者の増が望まれるところであるが、参加者が少なくても運営上問題はなく充実した時間の共有ができてしていると判断する。 方 法：アンケートより時間設定やオンライン方式について「良い」という結果を得ている。 昨年と比べ、参加者が解決したい課題を持って参加されている。そのためか本音で語る場となり、すべてが解決されたわけではないが終了時にはそれぞれが満足感を感じ明日からのマネジメントに挑戦していこうとする姿を見ることができている。</p>

	<p>また、今年度は、昨年参加し相談された方の結果を交流会で共有することも実施した。アドバイスや自分の経験を話された管理者側にとっても結果を聞くことは、自分自身のリフレクションや承認を得る場ともなっている。他施設の問題だけではなく、良い取り組みや看護管理者のマネジメントに対する姿勢に触れることができる時間であると評価できる。</p> <p>3. 研修企画</p> <p>ねらい：現場でトップリーダーとしてマネジメントを行う看護管理者のストレスマネジメントに焦点を当て、管理者がセルフコンパッションを持つ機会とし、スタッフのメンタルヘルスサポートに活用できる。</p> <p>評価：時期、時間的にも多くの管理者が参加でき、管理者の活動推進になった内容であった。研修のねらいは達成でき効果的な研修であった。</p>
<p>■今後の課題</p>	<p>1. 交流会の参加者</p> <p>新しい方の参加も広げていきたいと考えているが、「敷居が高い気がする」との意見もあり、気軽に誰もが参加できるという委員会の趣旨に準ずるよう広報をどうしていくのか検討が必要である。</p> <p>2. 交流会以外の看護管理者への支援について</p> <p>顔の見える関係づくりの推進や、交流会以外の企画の検討が必要である。</p>